

# 東白杵南部地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年3月 東白杵農林振興局  
(東白杵南部農業改良普及センター)



東白杵南部農業改良普及センター  
ホームページ

## 目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P 2)
  - 1 【日向市】ミニトマト作業で農福連携マッチング成立
  - 2 【全域】和牛繁殖農家の支援に関する技術員会を開催
  
- II 主な普及指導活動等の取組 (P 3～5)
  - 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動 (P 3～5)
    - [総合：担い手確保・育成、雇用労力の確保、中山間地域づくり 等]
    - [専門：茶(中山間)、肉用牛繁殖(若手)、冬春ミニトマト、ほうれんそう(椎葉)、へべす、スイートピー 等]
    - 1 【門川町】認定農業者の農業経営改善計画書の作成支援
    - 2 【日向市】農業経営相談活動に関する情報交換
    - 3 【美郷町】きんかん剪定枝の搬出作業で農福連携マッチング成立
    - 4 【日向市】経営規模拡大に伴う就農計画変更支援 ～経営安定への取り組み～
    - 5 【日向市】新規就農を目指す研修生の間評議会開催、就農適否の判断
    - 6 【日向市・美郷町】新規就農者定着に向けた就農状況確認を実施
    - 7 【日向市・美郷町】完熟きんかんの時期別栽培管理・剪定を指導
    - 8 【日向市・門川町】冬春ミニトマト生育診断の手法とハウス内環境改善を指導
    - 9 【椎葉村】ミニトマト実績・作付検討会が開催
    - 10 【椎葉村】七草実績検討会が開催
    - 11 【椎葉村】ほうれんそう作付検討会が開催
  - 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動(一般活動) (P 6)
    - 1 【全域】日向・東白杵農山村女性会議実績報告会を開催
    - 2 【日向市】水稻奨励品種決定調査現地試験の播種を実施
    - 3 【諸塚村】夏秋ミニトマト栽培暦説明会
    - 4 【美郷町】シキミ立枯症現地調査

# I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

## 1 【日向市】ミニトマト作業で農福連携マッチング成立

3日、日向市内のミニトマトハウスで、生産者、就労継続支援B型事業所、県農福連携推進センター、普及センター計6名が参集し、ミニトマト作業の農福連携に向けて現地検討会を行いました。

はじめに生産者から農福連携で予定している摘葉作業や栽培終了後の片付け作業の説明を行い、出席者で作業上の注意点や就業条件等を確認しました。その結果、生産者1戸とB型事業所1ヶ所とのマッチングが成立し、収穫終了後の7月頃から農福連携による片付け作業を開始することになりました。



【農福連携現地検討会】

## 2 【全域】和牛繁殖農家の支援に関する技術員会を開催

12日、普及センターで関係者20名が出席し、今年度の和牛繁殖農家に対する支援実績並びに次年度以降の支援の方向性を検討しました。

普及センターから重点支援農家の実績と課題を報告し、次期支援候補者の選定とともに、地域技術員会が連携して支援にあたる体制について合意形成を図りました。

地域の生産基盤維持に向け、意欲ある経営体への支援強化や、関係者で役割を分担して取り組むことの重要性を改めて共有しました。



【今後の産地維持に向けて協議する出席者】

## II 主な普及指導活動等の取組

### 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動

[総合：担い手確保・育成、雇用労力の確保、中山間地域づくり 等]

[専門：茶(中山間)、肉用牛繁殖(若手)、冬春ミソバ、ほうれんそう(稚葉)、へべす、アトピー 等]

#### 1 【門川町】 認定農業者の農業経営改善計画書の作成支援

認定農業者の農業経営改善計画申請に向け、2日に門川町役場で更新3件、認定新規就農者からの移行による新規1件の作成支援を行いました。

前回計画の目標と現状を確認し、今後5年間の経営発展に向けた改善計画の検討と、新たな目標設定を行いました。

生産コストの上昇する厳しい情勢ですが、所得を安定的に確保するための戦略を検討する有意義な場となりました。

#### 2 【日向市】 農業経営相談活動に関する情報交換

16日に日向みらいラボで、日向地区中小企業支援機構と、農業経営相談活動に関する情報交換を行いました。

同機構では、日向市と連携協定を結び、製造業、建設業、卸売業、サービス業等について、ヒアリングシートに基づく実態調査、企業支援を行ってきましたが、令和8年4月から農業分野でも、課題解決に向けた支援を行う計画です。

県で実施している農業経営相談所と同様の取組であることから、相互に連携しながら農業者支援を行っていくことを確認しました。

#### 3 【美郷町】 きんかん剪定枝の搬出作業で農福連携マッチング成立

17日、美郷町内のきんかんハウスで、生産者、就労継続支援B型事業所、町、普及センター計5名が参集し、きんかん剪定後の枝のハウス外への搬出作業について、農福連携に向けた現地検討を行いました。

はじめに生産者から剪定枝の搬出作業の説明があり、その後出席者で作業上の注意点や就労環境の確認等を行いました。その結果、生産者2戸とB型事業所1ヶ所とのマッチングが成立し、3月下旬から農福連携による剪定枝の搬出作業が開始されています。

今回は、部会役員等による試行的な取り組みですが、今後は課題等を整理しながら産地全体への普及を検討していきます。



【農福連携現地検討会】

#### 4 【日向市】 経営規模拡大に伴う就農計画変更支援 ～経営安定への取り組み～

17日、普及センターで、認定新規就農者1名と関係者の計5名が参集し、経営の規模拡大に伴う就農計画変更の検討会を実施しました。

会では、認定新規就農者が作成した変更計画について説明が行われ、その作成根拠や実現性について協議しました。

その結果、計画が妥当であると判断され、変更認定申請を進めることとなりました。

なお、今回の計画は、事前に普及センターが就農計画作成支援ツールの説明を行い、それを活用し、認定新規就農者自身で作成したものです。

今後も新規就農者の経営安定に向けた支援を継続していきます。

## 5 【日向市】新規就農を目指す研修生の中間評価会開催、就農適否の判断

2日、JA美々津支店で、新規就農を目指す研修生の中間評価会が、研修生、受入農家、関係者計7名が参集して開催されました。

会では、これまでの研修状況を振り返り、研修生が栽培技術や経営的資質を習得しているかを確認しました。

その結果、受入農家と関係者の間で、研修生の取組姿勢が大きく変化し、自ら考えて行動できるようになったとの評価で一致し、就農は可能と判断されました。

就農に当たっては農地や施設の確保が必要であることから、今後も関係者と連携した支援を行っていきます。

## 6 【日向市・美郷町】新規就農者定着に向けた就農状況確認を実施

3日と13日に、日向市と美郷町で、関係者により新規就農者の就農状況確認が実施されました。

日向市では施設野菜5名、美郷町では施設野菜1名及び肉用牛1名について、現地巡回により確認を行い、いずれも適切な栽培管理及び飼養管理が行われていることを確認しました。

今後も関係者と連携して、新規就農者の定着に向けた支援に取り組んでいきます。



【日向市就農状況確認】

## 7 【日向市・美郷町】完熟きんかんの時期別栽培管理・剪定を指導

18日、美郷町西郷のきんかんハウスで、JAみやざき日向地区本部美郷町さいごう完熟きんかん部会による剪定講習会が開催され、生産者21名、関係者6名が参加しました。

講習会では、普及センターが剪定後から新梢伸長期に至るまでの時期別管理について指導しました。また、葉面散布の重要性や、ミカンハダニやカイガラムシ類の防除には、剪定直後からの管理が肝要である旨を説明しました。特に、葉面散布については、実践した生産者から収量が向上した事例を情報提供していただき、参加者のさらなる意識向上に繋がる有意義な機会となりました。



【完熟きんかん剪定講習会】

## 8 【日向市・門川町】冬春ミニトマト生育診断の手法とハウス内環境改善を指導

5日、門川町9名、13日、日向市東郷6名、26日、日向市9名の冬春ミニトマトほ場を、関係者2名で巡回指導し、生育状況の確認と生育診断シートの説明を行いました。

年明けから晴天に恵まれ、着果量は多かったものの、一部のほ場では草勢の低下が見られました。一方で、日射量に応じてかん水量の増量や追肥を適切に行っていたほ場では、生育が順調でした。

また、新規に作成した「生育診断シート」を用いて、生育診断の考え方や調査方法、目標の草姿にするための管理について説明しました。農家からは、「改善手段が記載されていて活用できる」「従業員と共通のものさしで会話ができる」といった反応がありました。

今回活用した資料を元に、農業者自身による生育診断が行われ、冬春ミニトマトのさらなる品質・収量向上に繋がるように、引き続き支援していきます。



【生育中のミニトマト】

## 9 【椎葉村】ミニトマト実績・作付検討会が開催

10日、JA椎葉支店で、生産者17名及び関係者6名が参加し、夏秋ミニトマト実績検討会が開催されました。

令和7年の夏秋ミニトマトは、高温による着果不良や病害虫の発生により、特に盛夏時期の収量が減少し、出荷実績は約80tと前年比の87%に留まりました。椎葉村園芸部会夏秋ミニトマト専門部長から、「高温の傾向は今後も続くと懸念されるが単価は期待できるので、高温対策や病害虫対策にしっかり取り組みながら頑張っていこう」と挨拶がありました。

JAからは販売実績等の報告が行われ、駐在からは令和8年の土づくりや高温対策、病害虫対策について講習を行いました。

今回の検討会では作付け検討も同時に行われ、定植日や品種等の情報共有が行われました。早いところでは4月中旬から定植が始まる予定です。



【ミニトマト実績検討会】

## 10 【椎葉村】七草実績検討会が開催

10日、JA椎葉支店で、生産者7名及び関係者4名が参加し、七草実績検討会が開催されました。

今年度は、生産者10名で計画通りの約5万パックが出荷され、販売実績は約19百万円となりました。生産者による販売店訪問調査では、各スーパーに並べられた椎葉産の商品が、他産地と比較しても品質が良いことが確認され、取扱市場からも高い評価が得られました。このような状況を受け、椎葉村園芸部会七草専門部長からは「高品質の七草を今後も作り続けよう」とお互いを激励する言葉がありました。

JAからは出荷販売に関する実績説明や各種報告が行われ、駐在からは、高温対策や病害虫対策に関する情報提供を行いました。

また、令和9年3月には全国の主要な七草産地が持ち回りで開催している「春の七草全国大会」を生産部会で主催することとなり、準備に向けた検討も進めることになりました。



【七草生産者が実績を検討】

## 11 【椎葉村】ほうれんそう作付検討会が開催

17日、大河内矢立選果場で、生産者7名及び関係者3名が参加し、ほうれんそうの作付検討会が開催されました。

今年1月に椎葉村園芸部会ほうれんそう専門部が策定した「産地戦略ビジョン」に基づく活動として、今回は「作付け検討会の早期実施」と「優良事例の共有」を実施しました。

作付け検討会は例年より1ヶ月早くJAが企画し、6月の共選開始日に合わせて各自の生産計画を作成しました。この情報をJAが整理し、4月に共有・調整を図る予定です。この取組により、選別機や人件費の効率的な活用と生産性向上が図られます。

また、駐在から防除暦を配付し、総合的な病害虫対策について説明を行いました。今回改定した防除暦には、令和7年7月に皆でハウスを巡回し、確認した優良事例を合わせて記載しており、皆で蓄積した知見を共有する取組となっています。

今後も生産者・関係者が協力し、産地戦略ビジョンに基づく実践活動を行うことで、産地の目指す方向に近づくことが期待されます。



【ほうれんそう専門部で作付計画を作成】

## 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動（一般活動）

### 1 【全域】日向・東臼杵農山村女性会議実績報告会を開催

5日、普及センターで、女性会議会員及び関係者計12名が参集し、日向・東臼杵農山村女性会議実績報告会を開催しました。

会では、事務局から活動概要や事業実績等を説明し、参加者から活動報告や感想等の共有が行われました。

また、女性会議の今後の在り方や令和8年度の研修会及び視察研修に関する要望を把握するため、アンケートを実施しました。

今後も研修会や視察研修の実施を通じて、構成員の資質向上及びネットワーク強化に向けた支援を行っていきます。



【農山村女性会議実績報告会】

### 2 【日向市】 水稻奨励品種決定調査現地試験の播種を実施

3日、JA日向育苗センターでJA、普及センターの関係者3名が、水稻奨励品種決定調査現地試験の播種を行いました。

この試験は、宮崎県の奨励品種を決定するために現地適応性を検証するもので、今年も昨年に引き続き、加工用米の新系統「宮崎57号」と対照品種として「宮崎52号」、「夏の笑み」を供試しました。

今後、4月上旬に田植え、5月以降に生育・収量調査を行い、現地の適応性を判断するとともに、調査結果を関係者へ共有していきます。



【播種作業に合わせた  
箱剤の散布】

### 3 【諸塚村】 夏秋ミニトマト栽培暦説明会

25日、JA諸塚支店で生産者10名、関係者3名が出席し、令和8年産の夏秋ミニトマトの栽培暦説明会が開催されました。

普及センターからは、令和7年産で課題となったコナジラミ類の防除のポイント等について重点的に説明しました。参加した生産者からは、農薬のローテーション散布や土壌消毒について質問が出される等、次作の栽培に向けて積極的な取組姿勢が見られました。

夏秋ミニトマトは4月から定植が始まります。今回の説明会を踏まえた防除対策の徹底により、収量品質向上が期待されます。



【栽培暦等の注意点を説明】

### 4 【美郷町】 シキミ立枯症現地調査

11日、美郷町西郷のシキミ園地で、生産者1名、関係者6名（林業センター2名、JA3名、普及センター1名）が参加し、シキミ立枯症現地調査を行いました。

今回は、鹿児島県の林業試験場と国の研究機関である森林総合研究所から職員を招き、枯死株の調査や症状の出方を確認し、鹿児島県の事例について共有していただきました。

普及センターからは管内で確認される症状の情報共有を行い、森林総合研究所の知見を生かして今後生産者へ情報提供していくこととしました。

引き続き、対策について生産者への情報共有や外部との連携を行っていきます。



【森林総合研究所からの  
情報共有】